

令和5年度

# 研究のあゆみ

— 潟上市立東湖小学校 —



研究主題

## 自分の考えをもち、学び合いを通して高め合う子どもの育成

～自らの学びを実感できる授業づくりを目指して～

### I 研究の概要

#### 1 主題設定の理由

前年度の研究の成果

- ・話し合いのめあてを意識した参加と、よりよい解決方法を見付け、合意形成を図ろうとする意欲の向上
- ・話し合い後の活動に向けた意欲の高まりと、自分の成長の実感

前年度の研究の課題

- ・互いを認め合う振り返りの充実と、自己肯定感、自己有用感の向上
- ・知識・理解の質の向上と、問題を処理する技能の定着と活用

#### 目指す子どもの姿

- 自分なりの根拠をもって考えを表現する子ども
- 学び合いを通して、自他のよさを認め合い、考えを広げたり深めたりする子ども

##### 低学年

- ・自分の考えを自分の言葉で伝える子ども
- ・自分や友達よさに気付くことができる子ども

##### 中学年

- ・自分の考えをもち、根拠をもって伝える子ども
- ・互いのよさを認め合い、よりよい考えを見付けようとするができる子ども

##### 高学年

- ・自分の考えの根拠を明らかにし、筋道を立てて伝える子ども
- ・相手の考えを受け入れ、学び合いを通して更に自分の考えを広げたり深めたりすることができる子ども

#### 2 研究の仮説

必要感のある学習課題を設定して子どもの意欲を引き出し、個に応じた指導を行い、学び合う授業づくりを工夫し充実させることにより、自分の考えをもち、学び合いを通して高め合う子どもを育成することができるであろう。

#### 3 研究の重点と内容

##### 重点1

自分なりの根拠をもって考えを表現する子どもの育成

- 意欲や必要感が高まる課題の設定
- 個別最適な学びの工夫
- 掲示物の活用

##### 重点2

学び合いを通して、自他のよさを認め合い考えを広げたり深めたりする子どもの育成

- 互いの考えを交流、共有する場の設定
- 思考の連鎖につながる発問や、板書の工夫とICT機器の効果的な活用
- 自他のよさに気付く振り返りの工夫



## II 研究の実際



### 1年 国語科

#### 単元名

「としょかんとなかよし」  
(2/3)

#### ねらい

自分が選んだ本の中で、心に残ったところを紹介することができる。

- これまでの活動を想起し、本時の課題を確認する。

自分が選んだ本の中で、心に残ったところを紹介しよう。

- 紹介する方法を全体で確認し、紹介する準備をする。



- 全体で紹介し合う。



- 本時の活動を振り返り、次の活動への見通しをもつ。



自分の選んだ本を紹介しようという意欲を高めることができるように、子どもがタブレットで撮影した本の写真を電子黒板で提示する。(重点1)

本に付箋紙を貼りながらホワイトボードに書くように促し、どんな言葉で表現したらよいか分からない子どもには、個別に助言する。(重点1)

聞き手に伝わるように紹介したり友達の紹介をしっかり聞いたりすることができるように、話し方や聞き方の約束を提示し、実態に応じて教師が言葉を補足する。(重点1、2)  
全員のホワイトボードを提示し、互いの本について意見を伝え合う場を設ける。(重点2)

6年生に紹介しようという意欲が高まるように、自分ががんばったことや友達のよかったところを想起させる。(重点2)

### 2年 算数科

#### 単元名

「かけ算九九づくり」  
(17/18)

#### ねらい

九九を活用し、工夫して問題を解決することができる。

- これまでの問題との違いを比べ、本時の見通しをもつ。

かけ算をつかって答えをもとめるにはどうしたらよいだろうか。

- 課題を自力解決する。



- 考えを交流する。



- 課題のまとめをし、振り返る。



課題を明確にするために、既習の問題と違い、乗数と被乗数が定まっていないことを確認する。(重点1)

図を操作して立式ができるようにホワイトボードとマグネットの図を用意する。(重点1)  
根拠をもって発表することができるように、考えを図やホワイトボードにかくよう促す。(重点1)

ホワイトボードを使い考え方を共有し、より簡単で分かりやすい考え方を探すとという視点で比較・検討する。(重点2)

学びを実感できるように「どの考え方のどんなところがよかったか」という観点で振り返りを書くよう促す。(重点2)

### 3年 算数科

#### 単元名

「あまりのあるわり算」  
(6/8)

#### ねらい

除法の余りの意味について考え、その処理について図や式を活用して説明することができる。

- これまでの活動を想起し、本時の課題を確認する。

あまった数は、どうしたらよいのだろうか。

- 自力解決し、問題文に即した答えを求める。



- グループで考えを交流し、考えをまとめる。

- 全体で考えを検討する。



- 本時の活動を振り返り、次の活動への見通しをもつ。



前時までの学習内容を振り返ることができるように、既習の学習内容を掲示する。(重点1)  
問題解決への意欲を高めることができるように、子どもの言葉から学習問題を設定する。(重点1)

問題文の意味を捉え、既習の内容を思い出し活用したりすることができるように、子どもの見通しを板書する。(重点1)

根拠をもって発表することができるように、考えを図や式でホワイトボードにかくよう促す。(重点1)

余りの処理を正しく理解することができるように、実物を提示する。(重点2)

問題解決の達成感を高めることができるように、子どもの言葉を引き出しながらまとめる。(重点2)

本時の学習内容に沿った振り返りを行うことができるように、振り返りの視点を示す。(重点2)

### 4年 国語科

#### 単元名

「ごんぎつね」  
(6/10)

#### ねらい

つぐないを続けたごんの気持ちを読み取ることができる。

- 前時までの学習を想起し、本時の課題を確認する。

ごんは、どんな気持ちでつぐないを続けたのだろう。

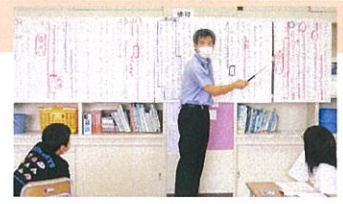
- ごんがつぐないをするときの気持ちが分かる部分を確認し、その気持ちについて話し合う。



- 「こいつはつまらない」と思ったのに、次の日もくりを持って兵十の家に行くのはなぜかを考える。



- 読み取ったごんの気持ちをまとめ、本時の学習を振り返る。



つぐないの行動を確認することができるように、教材文の該当する部分を掲示する。(重点1)

ごんの気持ちに迫ることができるように、つぐないの行動が書かれていない4と5の場面がなぜあるのかを考えるよう促す。(重点2)

ごんの気持ちの変化に気付くことができるように、これまでに出た意見を板書で確認し、子どもの読みを引き出す。(重点2)

各自の考えでまとめることができるよう、キーワードを示す。(重点1)

課題について分かったことや、新たに気付いたこと、友達の考えのよさを振り返ることができるように、振り返りの視点を示す。(重点2)



## 5年 図画工作科

### 題材名 「Myキャラが動き出す」 (4/6)



#### ねらい

表したいことに合わせて、キャラクターの動かし方を考えて撮影することができる。

- 本時の課題と流れを確認する。

撮影のポイントを確認することができるように、掲示物を準備する。(重点1)

テーマに合わせて、キャラクターの動かし方を考えてさっすいしよう。

- 撮影する。



自分の思いを表現することができるように、一人一人がタブレット端末を活用して撮影するように促す。(重点1、2)

- グループで交流し合い、1作品を紹介する。



キャラクターの動かし方について考えを広げることができるように、互いの作品を見合せて、テーマに合った動かし方について伝え合う場を設定する。(重点2)  
グループで交流したことを全体で共有することができるように、紹介する場を設定する。(重点2)

- 本時の振り返りをする。

テーマに合ったアニメーションにしようという意欲が高まるように、自分のがんばりや友達のおかげを想い起させ、次時の活動に生かすように声を掛ける。(重点2)

## 6年 読書指導 (第41回東北地区学校図書館研究大会福島大会にて実践発表)

### テーマ

#### 「共に学び、日常的に読書に親しむ子どもの育成～本の魅力に触れ、子どもと子どもがつながる読書指導～」

#### ねらい

子どもと本が出合う環境を整え、より多くの本の魅力に触れ、互いにおすすめする本を紹介し合う読書指導を積み重ねることで、「共に学び、日常的に読書に親しむ子ども」の育成を図る。

- 1年生との交流

(1年生一人一人の読書傾向を探り、読み聞かせを行う。)



1年生一人一人の読書の幅を広げることができるように、「発表の仕方・発表内容づくりのポイント」「発表で使えそうな言葉」について、随時確認しながら進める。(重点1)  
発表内容や口頭ノートを活用した発表方法について、互いの感想・意見を交流する時間を確保する。(重点2)

- ブックトーク

(本の魅力を紹介し合い、感想を交流することで、自分の考えを広げる。)



相手意識をもったブックトークができるように、「発表の仕方・発表内容づくりのポイント」「発表で使えそうな言葉」について、随時確認しながら進める。(重点1)  
発表内容や口頭ノートを活用した発表方法について、互いの感想・意見を交流する時間を確保する。(重点2)

- 感想交流

(友達がおすすめした本の中から1冊を選び、読後感を交流する。)



より深い読み取りと読書の幅を広げることにつながるように、同じ本を読んだ感想と、各自が捉えた本のテーマ・主題についての意見を交換する場であることを確認する。(重点2)

- ビブリオバトル

(読んで「おもしろい」と思った本を1冊選び、聞いている人に「読みたい」と思わせる紹介を3分間で行う。)



発表のイメージをもって準備を進めることができるように、内容や時間配分を確認する学習シートを準備し、練習時間を十分に確保する。(重点1)  
これまでの読書に関する学習の成果を発揮する場として、5年生を招待しビブリオバトルを行う。(重点2)

## 4年たんぱぽ組

### 国語科

### 単元名 「動きや様子を表す言葉」 (4/5)

#### ねらい

動きや様子を表す言葉をひらがなで表すことができる。

- 本時の活動を確認する。

なにをしていますか？  
どんなものですか？

- 写真を見て、動きを表す文カードとのマッチングをし、動きを表す言葉をプリントに書く。



課題に取り組む意欲を高めることができるように、子どもが活動している写真を用意し、慣れている言葉から最近学習した新しい言葉の順に提示する。(重点1)



動きを表す言葉だけを書くことができるように、マスが入ったプリントを用意し、言葉を書くときのヒントになるように、あいうえお表を活用する。(重点1)

- 絵カードを見て、様子を表す言葉のカードとのマッチングをし、様子を表す言葉をひらがな積み木で表す。



様子を表す言葉が分かりやすくなるように、形・色・大小、熱い・冷たい等のまとまりにして、絵カードを提示する。(重点1)

様子を表す言葉の理解が深まるように、自分で言葉に表す時間を設定する。(重点1)

- 本時の活動を振り返る。

達成感をもつことができるように、頑張りを認め、称揚する。(重点2)

## 6年ひまわり組

### 算数科

### 単元名 「角柱と円柱の体積」 (2/6)

#### ねらい

三角柱の体積の求め方を考えることができる。

- 学習の見通しをもつ。

三角柱の体積は、どのように求めるのだろうか。

- 課題を解決する。



解決の見通しをもつことができるように、底面の形である三角形の面積の求め方や、三角形を2つ合わせれば長方形になること等を確認する。(重点1)

- 2つの解決方法を比べる。



底面積の何段分になるか考えながら、図をもとにして式を確認するように促す。(重点1)

自分で考えた方法と別の方法とを比較することで、三角柱の体積は(底面積)×(高さ)で求めることができることを確認する。(重点2)

- 本時の活動を振り返り、次の活動への見通しをもつ。

達成感をもつことができるように、学習の成果を確認し、称揚する。(重点2)



### Ⅲ 研究の成果と課題

#### ～根拠をもって考えを表現～

##### ◆5年図画工作科「Myキャラが動き出す」

テーマを考え、オリジナルキャラクターのイメージを各自ワークシートに記入したことで思考が可視化され、タブレット端末によるコマ撮り撮影が根拠のあるものとなった。

#### ～学び合いを通じた考えの広がりや深まり～

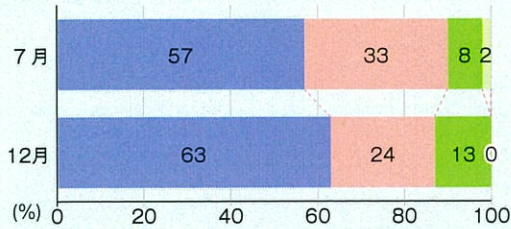
##### ◆1年国語科「としょかんとなかよし」

友達が勧める本を互いに読み合う活動を行うことで、その本に対する自分の感想を伝えたり、友達の発表に対してアドバイスをし合ったりすることができた。

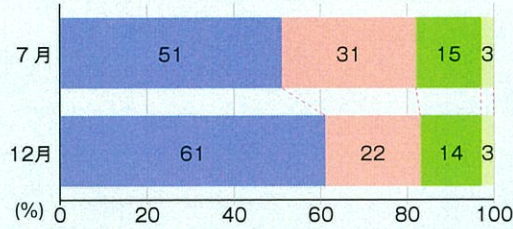
### R5学習アンケート（1～6年）

#### 1 課題提示の工夫とゴールの明確化

問題を解決するとき、これまで学習したことも振り返って考えている。



自分の考えをまとめたり理由をはっきりさせたりすることができるように、文や図などをかいて考えている。



#### 教師アンケート（4点満点）

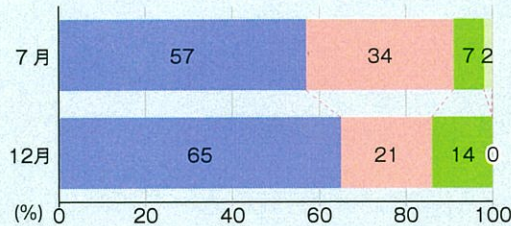
- ◆本時の課題の明確化
  - 7月 2.9ポイント
  - 12月 3.3ポイント
- ◆思考の可視化
  - 7月 2.8ポイント
  - 12月 3.1ポイント



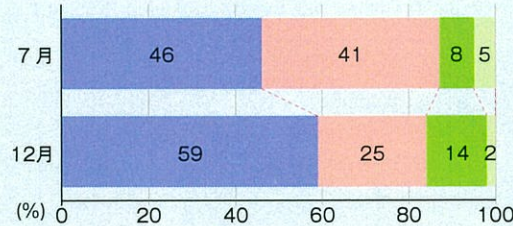
- 子どもが既習事項を想起したりこれまでの学習を生かしたりすることができるように、課題提示の仕方を工夫しゴールを明確にすることで、課題を自分事として捉え、課題解決に向かう意識が高まった。
- 一人一人が問題解決に向かう時間を保障し、個々の考えを可視化するための手立てをとることで、既習の知識や技能を生かして自分の考えをまとめたり表現したりすることができるようになってきたことを実感し、強い肯定の割合が高まった。

#### 2 学び合いを通じた考えの広がりや深まりと、振り返りによる自他のよさの気付き

学び合う学習を通して、分かることが増えたり自分とは違った考えに気付いたりしている。



振り返りでは、自分や友達のよさについて考えている。



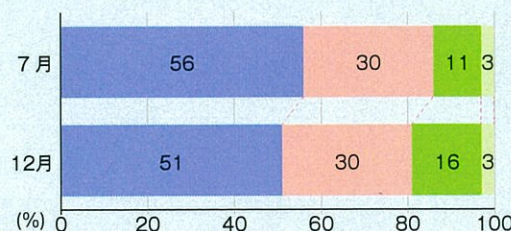
#### 教師アンケート（4点満点）

- ◆自他を認め合う場の設定による意欲の引き上げや、学びのつながりの意識化
  - 7月 2.9ポイント
  - 12月 3.1ポイント

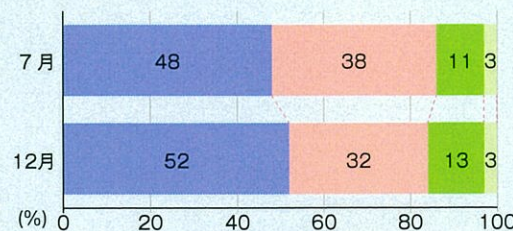
- グループや全体で学び合う場を設定し、話し合いの手順を示したり、話し合いをコーディネートしながら意見をつないだりする授業展開を積み重ねることで、学びが深まったという意識につながった。
- 振り返りの視点を提示したり、本時の課題に立ち返った具体的な振り返りをする場や自分の学びを伝え合う時間を設けたりすることで、互いの考えのよさを知り、認め合おうとする意識の高まりが見られた。
- 強い肯定の割合が高まったが、一人一人が考えの広がりや深まりを実感することができるような手立ての工夫が一層必要である。

#### 3 根拠を明確にして話すことへの苦手意識

自分の考えを整理して伝えたいことを話している。



理由をはっきりさせて、みんなに考えを伝えている。



- 課題解決に取り組む個の取組は向上しているが、自分の考えを整理したり、根拠を明確にして伝えたりすることに苦手意識が見られる。

### Ⅳ 来年度の方角性

- 自力解決と学び合いが往還する授業づくり
- 自分の考えを言語化し伝え合う力の育成
- 学んだことや身に付いた力を自覚できる振り返りの工夫